

令和元年度 第1回千歳市公営企業経営審議会 会議録

日 時 令和元年10月23日（水） 14：00～15：30

場 所 千歳市水道局2階会議室

出席者 別紙名簿のとおり

1 公営企業管理者挨拶

2 水道局新任管理職の紹介

3 開会

4 議事

(1) 報告事項

①平成30年度千歳市水道事業会計決算について
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

総務課財政係 春日主任

【質疑等】

(岩谷委員)

決算概要15ページの『(2)老朽化の状況 ②管路経年化率』を見ると、平成29年度から平成30年度にかけて、例年に比べ管路老朽化の進みが早くなっているが、これについては、どのように考えているか。

(大脇総務課長)

管路延長に対し、法定耐用年数を経過した管路延長が多くなるほど数字が大きくなる項目である。平成30年度に法定耐用年数を経過した管路が多かったことにより、数字が大きくなっている。水道事業の初期に建設された管路は、右肩上がりが増えていくため、この数字は年々上がっていくと考えられる。

(岩谷委員)

例えば耐用年数が40年として、40年経過した管路は「老朽化した」という解釈でよろしいか。

(大脇総務課長)

そのとおりである。

(岩谷委員)

確認だが、これから老朽化する管路は増え、ペースも上がっていくということか。

(大脇総務課長)

そのとおりである。ただし、記述のとおり、古い管路については水道施設更新実施計画に基づいて更新していくため、法定耐用年数を経過した管路は増えると同時に減っていく部分もある。その兼ね合いで、数字は年々変わってくる。

(成瀬次長)

補足だが、水道管の法定耐用年数は概ね40年と定められている。今から40年前は昭和55年頃である。当時新設された管路は多く、それらが耐用年数を迎えて数字として現れてきているため、増えているというのが現状である。

②平成30年度千歳市下水道事業会計決算について
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

総務課財政係 西館主任

【質疑等】

○スラッジセンターの業務委託について

(西澤委員)

スラッジセンターの委託について、何をどのように委託しているのか。

(大脇総務課長)

様々な委託を行っているが、大半を占めるのは施設の運転・管理委託についてである。終末処理場、スラッジセンターなどの施設の維持管理、運転管理といった包括的な委託を行っている。細かな委託については、設備点検や汚泥の運搬及び処分といったものが挙げられる。

5 その他

○施設見学について

(滝委員)

決算概要11ページの『8. 蘭越浄水場見学者及び名水ふれあい公園来園者数』であるが、小学校11校に加え一般の見学を受け入れているにも関わらず、見学者が少ない。小学校については、1学年又は1クラスの受け入れということか。また、同22ページの『8. 浄化センター見学者数及びスラッジセンター見学者数』についても、見学者数が少ない。学校に施設見学の斡旋を行ったりしてはいないのか。スラッジセンターについては、周囲にごみ焼却場や貝塚が集まっており、社会科見学にうってつけではないかと考えるが、水道局から教育委員会を通して各学校への施設見学の要請などの働きかけはないのか。

(上野施設維持課長)

社会科見学は、小学校4年生を主体に各学校1～3クラスを例年受け入れている。社会科見学に特化した要請等はしておらず、出前講座の一環として施設を見学してもらっているという位置付けである。水道に関する施設の方がやや人気があり、下水道施設の見学者数は臭い等の要因で伸び悩んでいる。

(佐久間局長)

水道施設については、各学校の社会科見学である程度の人数に来ていただいている。下水道施設についても、関心を向けていただけるような機会を作っていきたい。また、名水ふれあい公園の浄水場管理棟に水道情報館を今年オープンさせた。ゆくゆくはそこで水道及び下水道の仕組みや、各事業がどうやって運営されているか等を学べるようにしたい。時間はかかるが、市民の方の認知が広まるよう継続的に活動したい。

(滝委員)

水道及び下水道は生活に欠かせないものであるため、消費者協会や主婦の方も見学の対象として検討してはどうか。ぜひ多くの方に理解していただきたい。

(山下委員)

自分は消費者協会の者であるが、ぜひ来年度にでも企画して見学したい。周囲のごみ焼却場や貝塚なども併せての見学となると時間はどのくらいかかるか。

(佐久間局長)

今年実施できなかったが、同様の企画を検討したことはある。時間については、一日使っで見学したり、半日で簡単なものにするなど、参加していただける方の関心や時間の都合を鑑みながら、いくつかのパターンを考えていきたい。

○出前講座について

(岩谷委員)

先程出前講座の話が出たが、職員が学校へ出向いて講義をするというものか。それとも、現地で解説をしてくれるというものか。現地で実際に見てもらうのが一番だと考えるが。

(成瀬次長)

実物を見てもらう方が理解は深まる。現地において講座を開講する方向で検討したい。

(牧野管理者)

通常の出前講座は、依頼者の元へ出向いて説明するものであり、施設見学とはまた別のものである。浄水場の見学については、ある程度まとまった人数の見学でしか受け入れていないが、もっと気軽に見学に来ていただいて説明を受けられるようになればよいと考えている。来ていただけるような工夫を考えていきたい。

○用途別使用量について

(滝委員)

まず要望として、審議会資料に掲載されている4ページと10ページのグラフであるが、工場用など極端に差があるものは別として、見やすくなるよう水道事業と下水道事業で目盛りの数値を合わせてほしい。質問としては、上下水道ともに平成30年度に医療用の数値が著しく落ちている。原因は何か。

(成瀬次長)

医療用の数値については、北陽にあった医療施設が撤退したことによる。

(滝委員)

官庁用では平成30年度の数値が上下水道で1割ほど違うが、原因は何か。井戸を使っている施設もあることから考えると、工場用のように下水道の方が伸びると考えるが。

(牧野管理者)

平成28年度以降の数値の分析については、手元に資料がなく、すぐには詳細をお答えできないが、官庁用の使用量のほとんどを自衛隊が占めており、下水道の使用量の計測には管路に取り付けたメーターを使用しているため、訓練等で管路以外の場所に水を流す使い方をしていくことが推測される。

(滝委員)

管路以外の場所に流すとは具体的にどういうことか。

(牧野管理者)

例を挙げるとするならば洗車等である。一般家庭では基本的に水道使用量と下水道使用量は同量とみなしているが、自衛隊等は、水道とは別に汚水の排出量をメーターで計測しているため、上下水道で使用量に差が生じることがある。

6 閉会

以上